総務企画委員会行政視察報告書

報告者名	委員長　遠藤　隆志
視察日	① 令和６年４月２４日（水）～②令和６年４月２５日（木）
視察場所	① 東京都荒川区　／　② 東京都豊島区（としまみどりの防災公園）
参加者	遠藤　隆志（委員長）、関戸　繁樹（副委員長）、 原　　重樹、垰田　英伸、ｽﾍﾟﾙ･ﾃﾞﾙﾌｨﾝ、坂元　純一、谷上　　昇 （随行：事務局　上岡　繁、川﨑　由美）
視察項目	① 荒川区民総幸福度について ② としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）について

所　　感

①４月２４日（水）東京都荒川区
～荒川区民総幸福度について～

●荒川区の概要

荒川区は東京２３区の東北部に位置しており、東西に長く、隅田川が区の北東部を迂回して流れ、南千住、荒川、町屋、東尾久、西尾久、東日暮里、西日暮里の各地域がある。

区内の大部分はほとんど起伏がなく平坦だが、南西部には山手台地の一部があり、通称諏訪（すわ）台、道灌（どうかん）山と呼ばれる高台となっている。

・人　口：２１９，８１３人（令和５年１２月末現在）
・世帯数：１２２，０１０世帯
・面　積：１０．１６㎢

●視察内容

〈荒川区の取組み〉

①荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）について

荒川区では、物質的な豊かさや経済効率だけでなく、心の豊かさや人とのつながりを大切にした、区民一人一人が真に幸せを実感できるまち「幸福実感都市あらかわ」の実現をめざし、荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハッピネス：ＧＡＨ）に関する取組みを進めており、区民の皆様の幸福度を測るための「荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）指標」を作成している。ＧＡＨ指標は、荒川区がめざす６つの都市像に対応した、「健康・福祉」、「子育て・教育」、「産業」、「環境」、「文化」、「安全・安心」という６つの分野ごとの指標と、これらを総合する「幸福実感」指標の、全４６指標で構成されている。区では、これらの指標を用いて、平成２５年度から毎年度、「荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）に関する区民アンケート調査」を実施してきた。

荒川区自治総合研究所（ＲＩＬＡＣ）は区から独立した組織（平成２１年１０月に設立）として、区が抱える課題等について、横断的に調査研究を行い、区に対して政策の提言等を行っている。これらの一環として、区民アンケート調査の分析結果を広くお知らせするため、「荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）レポート」を発行している。

※区民アンケート調査の概要

調査期間：平成２５年度から毎年１回実施
（令和２年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

調査対象：満１８歳以上の荒川区民４，０００人（無作為抽出）

回収方法：郵送又は電子申請

調査項目：①荒川区が目指す６つの都市像に対応した６分野ごとの指標（４５指標）及び幸福実感指数（１指標）の実感度
⇒５段階評価で回答

②回答者の幸せにとっての指標の重要度
⇒各分野の上位３指標を回答

③回答者の幸せにとっての指標
⇒６分野の順位を回答

④自由に記述して回答する質問

⑤回答者自身の属性

※まとめ

区民アンケート調査の結果について、各指標の実感度や重要度を分析していくことに加えて自由記述についても着目することで、更に細かく区民の「幸福」、「不幸・不安」の現状を把握するとともに、幸福実感度が高い方が、幸せにとって重要だと思うことについて記載した内容を分析することで、回答者の幸福実感度がなぜ高いのか、その要因の一端を分析することができるのではないかと考えられる。また、幸福実感が低い方が、不幸・不安だと感じることについて記載した内容を調べることで、回答者の幸福実感度がなぜ低いのか、その要因の一端を分析することができるのではないかと考えられる。

②住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合「幸せリーグ」

「幸せリーグ」とは、荒川区が発起人代表となり、住民の幸福を政策の基本に据えた取組みをされている、あるいはそうした取組みを検討されている基礎自治体間の、緩やかな連合体である。基礎自治体同士が連携し、意見交換、情報交換等を行うことにより、住民が幸福を実感できる地域社会をめざしている。

※令和６年４月現在、北海道から九州まで６７自治体が参加

（参考）本市からの質問事項

・事業概要について
・事業開始のきっかけについて
・経費（予算）について
・今後の課題について
・アンケート分析の具体的な手法について
・アンケート分析から改善した実例について

●所管と展望

本市では、和泉中央丘陵において大規模な宅地開発が進められ、泉北高速鉄道の延伸により和泉中央駅が開設され、桃山学院大学の誘致、産業団地テクノステージ和泉の企業分譲が完了し、本市独特の「山地部」と「平野部」に至る変化にとんだ地形を活かし、都会と田舎が混在する「トカイナカ」、子育て・移住にちょうどいい街として、子育て支援、移住・定住促進策等様々な支援策でシティプロモーションを行ってきたが、平成２５年をピークに毎年人口が減少しており、人口減少、少子高齢化が懸案事項となっている。

それに対して、荒川区は人口増減率ランキングの上位にランクインされており、毎年人口が増加している。

今回の荒川区の「荒川区民総幸福度（ＧＡＨ）の取り組み」は様々な指数を指標化（特に実感度が低い指標・層に着目）することにより調査の分析結果を政策・施策形成へ活用している。このような取組みも荒川区の人口が増加している要因ではないかと推察する。

また、「幸せリーグ」の参加について、本市としても一考の余地があるのではないかと考える。

今回の荒川区の取組みを本市としても参考にしていきたいと思う。

②４月２５日（木）東京都豊島区
～としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）について～

●豊島区の概要

豊島区は東京２３区の西北部に位置しており、形は「ふくろうが羽を広げたかたち」に似ている。面積は東京２３区中１８番目の広さである。

・人　口：２９２，３３９人（令和５年１２月末現在）
・世帯数：１８５，８６３世帯
・面　積：１３．０１㎢

●視察内容

〈事業概要〉

災害時における地域住民の迅速な避難行動に対応し、木造住宅密集地域からの延焼遮断機能を発揮するため、地区の東側に面積１．７haの防災公園区域を配置し、池袋副都心に面した西側に面積１．５haの市街地区域を配置した。さらに、市街地区域では、区域北側（市街地Ａ）に文化交流機能（教育・研究機関）を誘導し、区域南側（市街地Ｂ）に木造住宅密集地域との連携を考慮して木造密集地域の解消にも資する居住

機能を有する賑わい機能を誘導した。

〈地区整備内容〉
①防災公園区域：約１．７ha
　公募を経て事業者を決定し、防災・賑わいの拠点として、区内最大面積を有する「としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK)」の整備を行う。
②市街地Ａ：約１ha
　公募を経て東京国際大学が令和５年に開校した。
③市街地Ｂ：約０．５ha
　木造住宅密集地域との一体的なまちづくりについて検討がすすめられており、現在は池袋保健所、としまキッズパークとして暫定活用されている。

〈としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）の概要〉
　としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）は、造幣局東京支局跡地において、災害に強く地域の賑わいを創出する活力ある市街地形成を実現するため、ＵＲ都市機構が行う防災公園整備事業と豊島区が行うＰａｒｋ－ＰＦＩを組み合わせることによって、防災機能と賑わい創出機能を兼ね備えた防災公園として整備された。
　事業実施にあたっては将来の管理運営を見据えた整備をするため、公園を整備するＵＲ都市機構と将来公園管理者である豊島区が共同で設計・施工・管理運営さらにＰａｒｋ－ＰＦＩを加えた一体発注を行い、効率的な公園整備と質の高い公共空間の創出を実現した。

〈施設見学〉
　としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）は、日常時は憩い、スポーツ、賑わいの創出等に、非常時は避難場所やヘリポート、災害用物資の集積所として活用される。その他にも、防災樹林帯や井戸水を使用したトイレ等、フェーズフリーの防災公園として、「いつも」と「もしも」の両面に対応した設備を多く兼ね備えている。

現地視察の様子

【設備】

①かまどベンチ：ベンチの中には、かまどが８基入っている。

②非常用トイレ：臨時トイレが１５基あり、災害時に解放することで、避難してきた方々がスムーズにトイレを使うことができる。（地下水を使用し流すことができる。）

③防災樹：木造住宅密集地域からの延焼防止の役割として、６４本のシラカシが植樹されている。

④深井戸：地下水を汲み上げ、速やかに消化活動を行うことができる。

⑤応急給水施設：大規模災害時には、地下に100㎥の飲み水を蓄えることができ、飲み水として利用することができる。

⑥非常用発電機：７２時間運転可能な発電機が備わっていて、停電時には自動的に切り替わり、自力で電気を供給することができる。

⑦ヘリポート：芝生の中心部は、ヘリコプターが着陸可能な耐圧基盤で造られたヘリポート機能が備わっている。

⑧大型車輌スペース：一時避難場所の他、豊島区全体への集配機能の役割が求められているため、１０トンクラスの大型車両が乗り入れ可能な強固な造りに設計されている。

⑨防犯カメラ：災害時、豊島区庁舎から迅速に園内の状況を把握、管理するために利用する。

⑩防災行政無線：豊島区から災害情報をお知らせする。

⑪防災井戸：災害時、消火や管理棟トイレの洗浄等に使用する。

⑫イベント用電源：災害時、停電が発生した場合、非常用発電機の電力により災害活動に使用する。

⑬備蓄倉庫：災害時の活動に必要な物資を備蓄している。

⑭非常用公衆電話：災害時、非常用電話が２０台設置されていて、誰でも利用できる。

（参考）本市からの質問事項

・公園概要について
・公園整備のきっかけについて
・経費（予算）について
・今後の課題について
・備蓄倉庫の入れ替えについて
・実際に災害が発生した時の活用計画について

●所管と展望

本市では、市内の公園の数か カ所に小規模な「かまどベンチ」、「防災トイレ」等を設置し防災対策を講じているが、としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）のような防災設備を備えた防災公園はない。

本年元日には石川県能登半島で大規模な地震が発生し、未だに多くの方々が避難を余儀なくされており、復旧・復興も未だに進んでいない。

本市としてもいつ起こるかもしれない「南海トラフ大地震」を想定し、早急にとしまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）のようなフェーズフリーの防災公園を整備する必要性があると考える。

また、Ｐａｒｋ－ＰＦＩ手法を取り入れることにより、地方公共団体の負担が軽減される等、様々なメリットが考えられるので、本市においてもＰａｒｋ－ＰＦＩ手法について、調査・研究等を進めていく必要性があるのではと考える。

今回の豊島区の取組みは、本市にとっても大いに参考になった。